

水資源機構 低入札価格審査委員会 審議概要

平成22年度第4回低入札価格審査委員会については下記の通り書類の回議をもって審議が行われ、調査結果については了承された。

日 時：平成22年11月5日及び8日

委 員

委員長 小澤 一雅 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
尾野村 祐治 ジャーナリスト
高田 敏明 弁護士

(五十音順敬称略)

議 事：【福岡導水上流工区耐震化等工事の調査結果について】

調査結果：低入札価格調査制度における重点調査を評価値第1位から第3位の者について並行して行った。その結果、評価値第1位の者については、以下の理由から当該契約の内容に適合した履行がされると判断できた。

低価格入札の理由は、直接工事費のうち、可とう管の管材費や綱矢板（全損）の購入価格等の調達予定価格が低いことと、共通仮設費、現場管理費、一般管理費等の諸経費を絞り込んだ結果である。資材費及び工事施工の協力予定会社の見積書並びに過去の取引実績が添付されており、水圧試験の費用や見積書の不明確な点についても、明確に回答が得られた。現場管理費の退職金引当金に計上漏れがあったものの、職員給与に過大計上があり、全体として不足が無かった。協力予定会社の諸経費や技術提案に係る費用が適正に計上されていることも確認できた。

審議の概要

- 重点調査の結果は、調査を受けた業者にとっては重要であると考え。重点調査を受けたものの、評価値が上位の者が落札者となったために落札できなかった者に対しても、調査結果を通知すべきである。
- 今回の低価格入札の状況を見ても、公共工事の発注量の減少の影響が感じられる。各社が価格競争と技術提案でしのぎを削って努力しているのは評価したいが、それが不況のために行き過ぎている。下請業者へのしわ寄せなど、心配な面もある。